

広報 みなみおくに

発行 南小国町役場 TEL 2-1111 印刷 穴井印刷 TEL 6-3118

町の人口

57年2月末現在

総人口 5,557人

男 2,659人

女 2,898人

世帯数 1,387戸

中原保育園開園さる

No **221**

1982

4月号

昭和五十七年度

施政方針



南小国町長 藤堂 真人

ここに昭和五十七年度の予算案の提出にあたり、私の施政の基本方針を述べ、各議員の皆様と、町民の皆様の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一九八二年度に象徴される国際的緊張の高まりと緩和にはなお好転の兆しが見えず、世界的なインフレの進行、景気の停滞、失業の増大に加え、国際収支の不均衡など依然として多くの困難を抱え、経済発展の鈍化と通商摩擦の増大より生ずる貧困と社会不安からの脱出には、なお多くの努力と支援を必要としています。

経済企画庁の発表したものであると、日本社会は今後出生率、死亡率がともに低下する「少産少死型」に移行し、この結果「高齢社会」が急速に進展するとされ、人

口構成は六五歳以上の高齢者が、全人口の中で一九八〇年九・〇％だったのが、二〇〇〇年には一五・六％、二〇二〇年には二一・八％と五人に一人が高齢者となり、人口も二〇一〇年の約一億三千万人を頂点にその後減少をたどることとなり、この結果、生産活動に従事している若人世代は高齢者に対する負担増を余儀なくされ、更に総理府統計局が発表した家計調査によると、全世帯の消費支出は一世帯当たり一ヶ月平均二四万一千四百で前年比四・一％の増加となり、物価上昇分の四・九％を除いた実質では〇・八％の減少となり、二年連続の実質減となつています。

一方、第二次オイルショックの余波がなお続いていること、および税負担の増加などが家計を圧迫消費支出がしわ寄せを受けていることを物語っていると言えましよう。

この様な情勢下に編成された政府予算は、一般会計四九兆六八〇八億円を柱とする五十七年度予算案を可決し第二次臨時行政調査会答申による大幅な行政改革をふま

えての超緊縮型予算となり、地方財政計画が前年度に比べ五・六％にとどまったほか、財政対策債の打ち切り、政府の公共事業伸び率ゼロに伴う国庫支出金の期待薄など歳入自体が限られてきたため、熊本県においても観光・福祉に力点をおいた四七三・九億円で、対前年比五・一％の予算にとどまり、これらの厳しい財政事情を反映した超緊縮型予算の編成を余儀無くされました。

しかし、その内容は南小国町の発展を鈍化させるものではなく、むしろ本年度をスタート台に大きく飛躍し、発展する内容を基本として編成致しました。

「行政改革」については国・地方を問わず最大限の改善・改革を必要とすることであり、本町においても①事務の民間委託・電算化 ②新規採用の抑制 ③事務、事業の整理・簡素化、を三本柱として鋭意努力を重ね、一方、町民の皆様に対する行政サービスの向上を図って参る所存であります。これが行政改革に対する当町の基本的考えであります。

私の町政に対する基本方針は、「対話と協調」の精神をもとに、「先祖を敬い、老人を大切に、父母に感謝をする人間形成、何人も健康であること」をモットーと

した本町行政の推進を図り、低迷する農業・林業の振興と商工業を基盤とした観光開発をすることと五十七年度の最重点施策として掲げております。

町勢の浮揚と発展を図るうえで必要な予算の確保には国および県で当局の格別の配慮を賜り、これらの計画推進にあたりましては、町議会議員の皆様にあたにかいご協力とお力添えを賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

この結果、国のサンシャイン計画の一環として実施しております豊肥地区大規模深部地熱発電所環境保全実証調査の五十七年度予算も計画通り認められ、そのうち、三千メートル級調査井を南小国町内の大谷山地区で掘削実施することと決定しました。

これには地権者並びに地元関係者の深い理解とご協力があり、先月開坑式が行われました。

この目的は今迄に例のない深部地熱流体の採取、利用、還元サイクルが十分に安全、確実であり環境保全上差し支えないことを実証するものでありますので、その成果が本町の将来発展に大きく寄与するものと期待されます。

〔五十七年度予算の概要〕

一般会計予算案の内容について申し上げますと、総額十五億九千九百八千円で、前年に比して、

一・四％増の超緊縮型予算であります。この背景は地方公共団体が国の交付金、補助金に依存することが大であり、且つ国の施策に同一歩調をとることでもあるからです。

このことから、予算編成にあたりましては経常経費の自然増と将来の財政展望、安定政策を考慮し且つ住民の福利増進を基調とした予算案を策定しました。

次に特別会計予算案について申し上げますと、国民健康保険特別会計が三億七千八百三十三万三千円で、(〇・四％の増)、農業共済事業特別会計が七千二百六十七万七千円で、(三・〇％の減)、簡易水道事業特別会計が五千二百八十九万九千円で、(三一・八％の減)、営農用水事業特別会計が七千四百八万円で、(五一・一％の増)、農地保有合理化促進事業特別会計が一千五百四十一万七千円(四・九％増)となつております。

では先づ一般会計予算案についてご説明いたします。

〔歳入〕

一般会計の主な歳入を掲げますと地方交付税が七億四〇〇〇万円、実収総額の四六％を占め、次いで国県支出金が三億三千三百四十二万二千円(二・〇九％と大きなウェイトを占めております。

これに対します自主財源は町税

で一億三六四四万円、財産収入が四五六万四千円、諸収入と使用料及び手数料を加えて一三・七兆に止まり、財政的に非常な厳しさを示しております。

〔歳出〕

歳出の主なものでは土木費三億三〇三〇万二千円で全体の二〇・七％、総務費で三億一七九四万五千円で一九・九％を占め、次いで農林水産業費二億三八四万六千円の一五％、民生費一億七〇四万四千円で一〇・七％、教育費一億六九五〇万五千円の一〇・六％などとなっております。

〔教育関係〕

教育は私の最も基本とするところであり、特に義務教育水準の向上を目指し、将来南小国町を背負って立つ若人の無限の能力を引出し、知性豊かな人間形成に全力を傾注することこそ最優先しなければなりません。

然し、皆様もご承知のとおり、青少年の交通事故及び交通違反、非行は都市から地方へ、年齢的にも益々低年齢化の傾向にあります。

最近では非行内容も痛ましい犯罪を身近に見聞きする時代となりましたことは誠に由々しい問題であります。

これに対処するには先づ家庭教育、親子の対話、学校での指導と対話、学校と父兄との協調が必要

と考えられますが、町としても非行防止策を最重点課題として取組んでゆく所存でありますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に残された五校の小学校問題（建設問題）につきましては（昨年より継続審議中）現在、議会の文教建設常任委員会に付託され、教育委員会と共に審議中でありますが、各校区内住民の方々のご意見を十二分に尊重し、ご要望に添った方向で将来の展望を考え、基本計画を策定し、それを推進したいと考えております。

中学校関係では体育館の屋根替工事も完成され、本年度は校舎及び寄宿舎の諸工事並びに、現在中学校グラウンドの改修を国県と協議中であり、決定次第その改修に取組予定で。

小学校では黒川小学校の下水路工事も完成し、本年は市原小学校の屋上改修工事、星和小学校の石垣工事、満願寺小学校のグラウンドフェンス工事、中原小学校の諸工事及び黒川小学校の諸工事、また満願寺小学校の排水工事については現地の状況等を検討した後に着工致したいと考えております。

修学旅行及び潮干狩り、キャンプの経費は、小中学校共に全額町負担いたします。

また教育向上のためには奨学金

貸付制度が今日まで有効に利用されておられ、最大限のご利用をお願いいたします。

社会体育関係では田の原グラウンドも完成し、南小国町中央グラウンド建設を昭和五十七年度に計画いたしましたところ、現在実験林構事業を実施中であり、同類事業にて実施予定していた関係上、二つの事業が同時採択できず、余儀なく五十八年度に事業計画の運びとなり、新林構事業で取組こととなりました。又老人の方々の老後の安定と健康を考える時、中央ゲートボール場設置は必須条件であり中央グラウンドの建設と同時に取組む所存でございます。

社会体育については五名の体育指導員と各協会長の方々と共に相談し、体位の向上と健康増進のため邁進して参りたいと思ひます。

観光開発関係では、財団法人・南小国町総合開発公社の事業として瀬の本、黒川、田の原、満願寺、小田を中心とした観光開発を進めると共に、農業・林業の二次・三次産業の加工場の施設と雇用促進を図ってゆきたいと思ひます。

本年度から熊本県では「大型観光キャンペーン」を新しくとり入れ、本年は八月から四ヶ月間にわたり運動を展開することとなり、同企画に合わせ、この山紫水明の地「南小国町」を広く全国に紹

介し、観光振興の起爆剤となるよう只今検討を重ねております。

大自然の中の記念すべき第一回阿蘇・瀬の本高原マラソン大会には、最高齢者八十三歳、遠くは北海道、沖縄、外人の方々まで、一・二四名の予想以上の参加を賜わり、参加された方々はもとより、議会議員の皆様及び町民の皆様のご理解とご協力があったこそ、盛會に出来たのであります。ここに厚くお礼を申し上げます。

本年度も引続き第二回大会を八月二十九日に開催いたしますので、引き続き協力とご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

この機会に全国に、この雄大さと南小国の特色を啓蒙したいと思ひます。また、女子マラソン全国大会も中央の方より話があり、只今、前向きに検討中であります。

次に文化財保護であります。五十五年度に設置しました文化財保護委員会も、小国郷の埋れた史跡の調査に活発に実動されておられ、満願寺八十八ヶ所遊歩道に合せて調査され、また南北小国に現存する八十八ヶ所の調査も終って編集されており、「ふる里南小国の文化向上」と発展に大きく寄与するものと期待致しております。

新生活運動

自然休養村管理センターの利用者も増え、ご同慶にたえません。

公民館運営委員会の決議による冠婚葬祭の簡素化改善、成人式の服装の簡素化、特に（女性の皆様の着物の廃止）については、成人される方々の特別のご協力により昭和五十三年度の決議以来、年々洋服での参加者が増え、着物で参加する方々が少なくなったことは喜ばしい次第であります。

また男性の参加の皆様には自発的に簡素化にご協力頂だき、女性の皆様と共に自覚と深い理解を賜り、年を追う毎に新生活運動の啓蒙が進んでおります事は、町民の皆様のご協力と深いご理解の賜であり厚くお礼を申し上げます次第であります。

結婚相談委員会も発足以来その実績をおさめ、企画町民相談室において人名カルテも作成されており何時でもご相談に応じる体制を整えております。機密は厳守致しますので、近くの相談委員にご相談いただければ幸せと存じます。

花いっぱい運動は推進中であり、道路公園等の美化に務め、県補助を頂だき、各婦人会の皆様のご協力をいただいて、明るい豊かな町づくりの基礎を作りたいと考えております。

町民ごぞって公害を無くして、花の様な美しい心を育て、各自が助け合いの心を持ち、素晴らしい南小国町の形成を望むものであり

〔産業経済関係〕(農業)

ます。

本町の主産業であります農業は二年続きの日照不足、多雨といった異状気象で米作は戦後二番目の不作など、西日本一の農業県・熊本も大きな打撃を受け、本町も同様の手痛い打撃を被り、加えて水田再編二期対策、農畜産物の価格低迷、生産過剰と農業を取り巻く情勢は相変わらず厳しい状況下におかされております。本町としましてはその打開策として各種事業に取組み、自然休養村事業、新農業構造改善事業はお陰をもちまして無事終了致しました。

本年度は新規事業としての新地域農業生産総合振興事業によります上中原漬物加工場の建設、及び脇戸、田の原、波居原各地の牧乾施設の建設を行ない、今後の農業経営の拡大を図って行きたいと思っております。

第三期山村振興農林漁業特別対策事業は一昨年度より実施致しておりますが、本年度は牧道整備事業として矢ヶ部線の建設を計画しております。

単県土地改良事業としては、本年度に平瀬水路整備事業を行うこととしております。今後共に水路改修事業には積極的に取組みたいと存じます。

高原開発事業は土作りの基盤であ

り、畜産を源となす牧野改良、道路の整備など、生産性の向上を図る基本であり、第一期事業も約二億二〇〇〇万円の事業が完成され、地域住民のご期待に添って着々と進んでいることは誠に喜ばしい事であります。本年度からは第二期事業も湯田、馬場、扇、ほか大字満願寺地区内二箇所を予定しており、今後の農業生産の向上のための推進母体となることと期待しております。

前年度計画しました瀬の本線の農免道路整備事業は色々な屈曲があり、中止をやむなきに至り、本年度は一部舗装によって対応し、今後の問題として高原開発事業にのせて取組むことが肝要かと存じます。現在、地元と協議中でありその実現に期待をしております。

また、農免道路整備として、西部横断道路建設促進のため、現在国県に対し陳情中であります。

その他、4Hクラブの助成、地域農業後継者協議会助成、農協青壮年部婦人部助成、農家生産資材資金利子助成、水稻種子更新補助、特殊農産物新産地開発事業補助、小規模耕作地整備助成、胡瓜大根価格安定基金助成、花き新産品産地育成助成、牧道開発助成、仔牛早完防止対策利子補助助成、家畜人工授精助成、和牛導入利子補助助成、肥育素牛導入利子助成等各

種事業の助成を行ないます。

農業委員会は五十二年度まで農地の許可申請のみを審議してまいりましたが、五十三年度地域農政特別対策事業の指定を受け、農用地利用増進事業計画実施を行って以来現在継続中であり、五十六年度から新規補助事業として農業委員会体制整備事業が発足し、五十六年度他町村に先がけ指定を受け、事業に取組んでおります。

今後の農業委員会の役割は農地三法が施行されて三年目を迎える今日、新しい農地制度の下に本格的な農用地の流動化、有効利用が進められております。

貿易摩擦の激化するなかで、農畜産物の輸入自由化、圧力の強化、深まる農畜産物の過剰化と生産調整、抑制農産物所得の減少は厳しい環境の下にあり、特に十三年目を迎えた米の生産調整は、益々拡大を余儀なくされており、今日、農業及び農村をとりまく情勢は、極めて厳しく、農業所得を確保することの農家経営にするには如何にすべきか、十二分に審議すべきであります。南小国町内の農家戸数は七八二戸、耕地面積は六八八ヘクタールで、農家一戸当たり平均耕作面積は八九アールであり、その比率は専業農家が四三・一%、中核農家と目される専業、第一種兼業農家を合せて四四五戸で全農家の五六・九%であります。

昭和五十四年は日本の人口の、八・六%が老年人口であり、これに対し当町の老年人口が一四%と全国平均を二十年以上も先を走っているといったのが住民の高齢化である訳です。

したがって、全国平均では老年人口が全人口の二%になるのが三十八年後であっても、当町の場合は全国平均より十九年も早く、昭和七十六年には住民全体のうち二%が老人ということは避けられない事実、このような現況を考慮しながら農地三法の改正を充分に生かし、足腰の強い中核農家の育成が急務だと考えられます。さらに農地三法による相談活動を主軸に、推進体制を整備し、新しい農地制度のもとで農用地の効率的利用の促進と農用地の一体的、総合的な管理体制を確立することが重要であり、当町農業委員会においては昨年度より水田利用再編対策をかんがみ、農用地利用増進事業実施計画を進めながら、体制整備事業の中で農業委員会と農協が合同体となり、農地利用対策推進班後継者等対策推進班、営農対策推進班の三つの班を設け、農地流動化、農地利用増進、総合的な農地管理、推進体制の整備、その目標を十年計画とし、推進の確立と町民への啓蒙のため、部落毎に説明

会を行ない、鋭意取組んでおります。これが今後の南小国町の農業の未来図の基本であり、熊本県農業会議においても、この南小国町の積極的な取組みに大きな期待を寄せており、その期待にそむかぬよう努力する所存であります。

農協事業に対する助成には、町単独による拡大助成を講じております。今後、転作促進対策、農産物自給の向上、農業後継者の育成充実、農協壮青年部、農協婦人部、果樹園芸、キウリ、大根、タバコ、養蚕等の振興に努め、品質の向上と価格の安定を確立し、産物の安定供給に努力しなければなりません。今後共に農協と一体となり各諸問題を十分検討し邁進するものであります。

〔林業〕

林業においては木材価格の低迷が依然として続き、他方では外材も生産国独自の低コストにより製材品化しての日本上陸に切替えるなど益々その危機感を強めております。健全な森林を育成するためには適期の除・間伐が絶対条件ですが、然し間伐経費の高騰、労働力及び住宅建設数の減少、間伐材の需要減衰など問題が山積、熊本県でも五十六年度から五ヶ年計画で間伐対策に乗り出したほか、林野庁でも間伐促進総合対策事業をスタート。本町もこれらの事業を

積極的に取入れ、また作業道開設、間伐材の流通・加工に力を入れて、間伐材の需要拡大に力を注ぎまして、祖先より引継いだ財産「森林国・南小国」の名を更に高めるべく最大の努力を重ねて参る所存でありますので、林業に係る大多数の町民の皆様、何としてもこの窮極を乗り越えてくださいますようお願い申し上げます。

係る事態を乗り切るには、林業施策の抜本的拡充強化を図り、林業経営等山村地域の振興を一層促進することが必要で、本年度事業としては継続中の新林業構造改善促進対策実験事業として、昨年度は森林組合貯木場舗装事業のほか林道開設事業を行いました。本年度は引き続き林道田内切線開設事業を行います。

また林道新設改良事業として星和線新設改良事業を、山村振興事業として林道横又線、坪ノ内線、下大野線、下立岩線の開設事業を更に単興林道舗装事業として横道線を、集団間伐促進対策事業としてフォークリフト及び作業道建設事業助成、特殊農産物新産地開発事業として薬草オーレン、ワサビせんまい、せんぶり等の栽培補助事業等を行い、林業振興地域育成対策事業として取組んでまいる所存であります。

入会林野整備事業

入会整備事業は当町においては百年計画の基礎であり、林野の高率の活用、農産物の健全なる発展を促進するものであり、本年度まで各地域の方々のご協力により順次推進して参りましたが、その努力とご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

五十七年度も大いに促進を図りたいと存じますので、皆様の深いご理解とご協力をお願いし、推進されることを願います。

森林組合に対する助成については諸般の事情にかんがみ、林業経営の確立と振興を一層促進させ、販売の向上、生産の向上を図りつつ推進に協力するものであります。

町単独による拡大助成を講じており、林研クラブの育成、特殊林産物研究会育成、林業後継者の育成充実を推進し、今後共に森林組合と一体となり各諸問題を充分検討し邁進するものであります。

〔老人福祉・社会福祉〕

老人福祉と社会福祉の充実が私のもっとも基本とするところであり、時代の転換と共に強く要求されております。老人の方々の対策こそ私たちに与えられた重大な使命であります。今後十年後の推移が、これ迄の一八八万人の増から爆発的に四二七万人へと急増することが予想されております今日、年々増加する老人の方々の健康を

第一に考えるとき、中央での老人憩の家開設、ゲートボール場の設置などが必要であります。

特に本年度もゲートボール場の砂の配付、ナイターの設備等は全面支給を行います。また高齢者及び優良健康老人表彰並びにハリ・キユ補助は本年も継続致します。

昨年新規施策として購入しました移動式リハビリ用風呂が高率的に利用されなかつたため、本年は移動用を使用する自動車を購入しねたきり老人の皆様がその場で風呂にはいられるよう措置をして便利を図り、多くの方々より利用され、快適な生活が営まれるよう又、一日も早く全快されるよう願うものであります。

社会福祉

昨年は国際障害者年に伴い、温かい言葉の掛け合い、相互扶助と連帯意識の向上のため、町民あげて運動を展開したのでありますが、本町においては本年も引き続きこの推進に努め、老人福祉の充実発展と合せて強力に推進したいと存じます。

社会福祉の充実を図ることは本町の基本であり、民生委員の皆様方の努力により、ねたきり老人対策、福祉の向上に格別のご配慮を賜っており、深く感謝を致すところであります。

町に於てもホームヘルパーの活

動が充実し、保健婦の配置により、町民全員の健康管理を行っております。ホームヘルパー原西君、及び保健婦の大塚君、数多くのご相談を戴いただけに幸せと存じます。

尚、阿蘇広域圏事務組合の循環器検診による全項目検査を実施致しております。

第一次コースは全額町負担と致します。

第一回の検診で受診できなかった人は二回、三回と実施し、町民全員一〇〇%の受診をお願いし、その結果により疾患が検診発見された場合には、第二次コースにて精密なる検査を行うこととしております。一〇〇%検診に最大のご協力方をお願い致します。

なお胃ガン・子宮ガン検診は本年度も全額町負担とし、早期発見早期治療に万全を期したいと思っております。これも偏に県及び町内検診医師先生の格別のご協力によるものであり、子宮ガン検診率は熊本県一位を五年間連続の表彰を受け日本一に近いものと誇っております。ここに先生方のご苦労に対し厚くお礼を申し上げ、感謝の意を表するものであります。

中原保育園建設に当っては、国及び県、地元的地権者、また皆様方の深い理解とご協力により五十六年完成し、開園できますことは、地元民と共に喜ばしいものであり

ます。関係各位のご協力に対し厚くお礼を申し上げ感謝の意を表します。

父子母子家庭の皆様には社会情勢の対応と、生活環境の荒廃及びお子様の教育などのご苦労に対し、心から敬意を表するものであります。昨年度は町議会議員の皆様を一日お父さんとして迎え、ご協力を賜り、お子様方のご面倒を見て頂だき、会員の皆様との連帯感を深め、強く印象に残るものがありました。本年度は役員の皆さんとご相談の結果、今後如何に対処すべき問題点と、会員の皆様の向上を図るため、権威ある先生を招き講演会を開催することとなりました。また新しい施策として、会員の心情を察する時、町の施策の一環として、本年度より医療費負担の全額補助をすることに致しました。今後共に会員相互の連帯感を深め、益々充実することを期待致したいと思っております。なお本年も、母子保健栄養強化事業として、妊婦、乳幼児の健康管理体制の充実強化の一環として、母と子にミルクを全額町負担により継続支給致します。

〔道路防災・交通安全〕

主要地方道竹田小国線の国道昇格については、全国会議員の先生方、熊本県、福岡県、大分県の格別のご配慮とご協力により、国道

四四二号線に昇格致しました。いよいよ五十七年四月より国道として取扱いが実施されます。

これも偏に町議会議員の皆様をはじめ、地元の皆様の深いご理解とご熱意とご協力による賜であり、深く感謝の意を表するものであります。

竹田小国線の国道昇格に伴い、県道産山小国線の主要地方道昇格について、県ご当局に対しまして強く要望致しました処、主要地方道産山小国線としてご認定賜り、地元町としてこの上ない喜びとするところであります。ここに県ご当局に対し厚くお礼を申し上げます。

本年度事業としては国道四二二号線(竹田小国線)新設改良事業の促進、主要地方道産山小国線の新設改良事業促進、県道市原小川原線の新設改良事業(湯田バイパス工事)及び舗装事業の促進(単県改良事業及び舗装事業負担金として二一五〇万円)、河川砂防では、中原川通常ダム砂防工事の完成に伴い、中原河川の改修促進工事、志賀瀬川河川改修工事の促進、馬場川の河川改修及び砂防河川工事の促進等も着々と進行しております。これも偏に国・県の多大なるご協力の賜であり、また地元関係者の熱意と協力によるものであり、深く感謝致しております。

町道関係では田の原白川線、市原町内線、湯田矢田原線、矢津田上下線、坂迎畑線、門の本菰田線、松ノ木 轟線の改良工事、道路舗装事業として市原町内線、星和黒原線、星和吉原線、手形野線、松ノ木轟線、田の原白川線、吉原瀬の本線工事を行います。

本年度は特に小規模改良舗装工事(幅員四m以下)等は町民の日常生活に最も必要な道路とみなし事業を拡大して取組む所存でございます。またその他舗装以外の件については各部の年次計画により、生コン支給も拡大しており、また維持工事等にも予算を拡大して計上いたしました。

消防関係では林野火災特別対策事業として、防火水そうの設置を(瀬の本外数ヶ所)を予定しております。これらについては採択され次第本年度事業として行いたいと考えて努力しております。

消防車庫およびシャッターはほとんど完了し、当初の目的を達成することができました。志賀瀬川改修に伴う機動分団の車庫及びシャッター取付工事については、五十六年度最終予算に計上し取組んでおり、消火力の一層の充実を図るよう万全を期してゆくことにしております。

交通安全ではガードレール二〇〇m、反射鏡二〇ヶ所補修、外側線

整備等の事業を行い、老人及び児童生徒の交通安全対策に力を入れることとし、事故防止に努める所存であります。

本町では昭和四十二年に交通安全宣言を行いました。去る五十三年に交通安全再宣言を致しました。本年度で当初宣言以来十五年

目を迎えるにあたり、交通安全再々宣言を新年度早々にやりたいと考えております。今日の自動車社会は交通戦争であり、飲酒運転の違反者、暴走行為の違反者が続出しており、その重大な事故が家庭破壊の悲惨さを生む結果となっております。

目を機して、町民ごぞって交通安全事故防止の為、シートベルト着用と安全運転意識の啓蒙を図るために宣言を行いたいと思ひます。町議会議員の皆様並びに町民の皆様の絶大なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(商工観光過疎対策)

商工振興については、町内商工業者の経営の安定と、購買力の充実を図る為、一昨年より異状気象及び冷害等の余波を受けたその対策の一環として、別枠の融資制度を設けて振興を図りましたが、本年度も継続致します。また小口融資資金制度も商工会の要望により拡大してゆく所存であります。

本年も商工会事業に対する助成

町単独による拡大助成を講じており商工会青年部に対する助成と婦人部に対する助成、盆踊り大会助成、タバコ販売組合助成、商工業後継者育成充実に推進し、今後共に商工会と一体となり、各諸問題を充分に検討し邁進するものであります。

観光開発

国民保養温泉地事業の満願寺遊歩道は二年連続して補助金が中止され、本年度は実現に向け努力中であり、計画としては必ずめ地獄遊歩道建設事業も行う予定と致しております。

瀬の本、黒川、田の原、満願寺小田の町内温泉地観光施設も完備しつつありますが、前述のとおり第二回阿蘇瀬の本マラソン大会を行うことにより観光振興に多大なる効果があるものとして期待いたしております。

南小国町総合開発計画も阿蘇郡広域圏実施事業計画に伴い、県・郡と共に逐次実行に移したいと考えております。

過疎対策は、今日最も重要な課題であり、企業誘致については、国県及び各種事業体に対し、誘致の斡旋方をお願いしてありますが、なかなか厳しい状態にあり、鋭意努力をして参らなくてはならないと思ひます。また五十七年度より計画予定の地場産業を生かした農

産物の加工場、間伐材及び林産物の加工場施設等は補助金等の都合により五十八年度事業に計画変更し、施設の充実を図り、雇用促進を行い、企業開発を積極的に推進していく所存であります。

(住宅環境の整備)

住宅対策は既存の町営住宅の老朽化を考慮し、今後の利用度を勘案しながら逐次建設を行い、老朽した家屋については関係者のご意見を調整しながら検討して参りたいと思ひます。本年度は黒川住宅の建設を予定しております。

簡易水道

皆様の日常生活に直結している水資源の確保は誠に重大であり、水源地利岩地区の皆様のご理解とご協力を得て、五十六年度は断水もなく水の供給ができましたことを厚くお礼を申し上げます。

また志津地区の水源確保については、志童子の部落民一同の皆様と水源地の橋本長男氏と吉野常雄氏の方々の深い理解とご協力の賜であり、厚くお礼を申し上げる次第であります。

今後志津地区の工事完成後には市原水道が水量不足のため、立岩水源地よりの水と志童子水源地の水とを合流することにより約三〇〇トンの水が確保でき各地域の給水配分も可能であり、飲料水不足も解消されるものと思ひます。

工事完成まで今しばらくのごしんぼうをお願い致します。その外黒川、瀬の本、波居原、手形野、脇戸、動目木、中原地区外町内全地区の安定給水に全力をささげ努力をする所存であります。

本年も引き続き町長対話の日は四月より毎月一回とし、昨年都合により出来得なかった町政移動相談を校区毎に実施し、町民各位のご意見、ご希望を町政に反映し魅力ある「南小国づくり」に職員共々一丸となって創意工夫し邁進する決意であります。国鉄宮原線については、その存続が極めて困難な情勢となっておりますが、熊本県知事、大分県知事、四町協議会としては絶対反対の態度で望むものであります。町民の皆様の大なるご協力とご支援をお願い申し上げます。以上、施政に対する、私の基本方針を述べ明るく住みよい豊かな町づくりに邁進し、皆様のご期待に添うよう挺身する決意であります。最後に、町議会議員各位をはじめ全町民の皆様のご協力とご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。昭和五十七年度の施政方針と致します。

昭和五十七年三月十二日
南小国町長 藤堂真人

小国町・南小国町 春の全国交通安全運動主要行事実施計画

区 分 日時・場所	活 動 種 別	主 催	活 動 内 容
4月6日 10:00~13:00 小国警察署	第1回小国地区 交通安全タイムレース 大会 推進大会	・安 協 ・安 管 ・両町役場 ・警 察 ・その他関係機関団体 約500名	春の全国交通安全運動実施が地域住民へ周知徹底するため町民の制限なく参加できる「交通安全タイムレース」を催し交通安全の意識啓蒙を図る。
4月6日 14:00~17:00 管内要所	看板、けんすい幕等の設置（掲示）	・安 協 ・青年団 ・両 町 ・警 察	安全運動実施中の看板、けんすい幕を掲示し事故防止を図る
4月9日 10:00~12:00 管内要所	足型マークの点検 補修、新設	・安 協 ・安 管 ・両町役場	管内に設置してある足型マークを見直し補修、あるいは新設してこどもの事故防止を図る。
4月10日 7:30~9:00 管内要所	パトカーのデモン ストレーション	・警 察	当署のパトカー五台を連ねたデモンストレーションを行い、マイク広報により交通安全の意識啓蒙及び交通事故防止を図る。
4月12日 13:00~15:00 旧小国署前 杉田住宅前	自転車、二輪車の 街頭点検	・安 協 ・二輪車組合 ・警 察	街頭で自転車、二輪車の無料点検を行いあわせて交通事故防止を呼びかける。
4月14日 15:00~17:00 旧小国署前 南小国農協前	チラシ配布 シートベルト着用、二 輪車昼間点灯、ヘルメ ット着用等の呼びかけ	・安 協 ・安 管 ・婦人会 ・青年団	街頭指導及び有線放送等で、運転者、家庭、事業所に呼びかけ着用推進を図る。
期間中	児童、園児、老人交通 教室 街頭監視 広報活動	総ぐるみ	期間中毎日、左記活動を実施交通事故防止を図る。

国民年金便利な前納制度を利用しよう

国民年金のかけ金額は、今月から五、二二〇円になりました。ところで、かけ金の納付方法は毎月納付の方法がとられています。このかけ金は、集金にこられたときに留守をしたりいろいろな都合でついすっかり忘れてしまうことがあります。

そこで、こうしたことを防止するために国民年金には、かけ金を一年分まとめて納める前納制度があります。この前納制度を利用するとつぎのような特典が……。

●納め忘れが防げます。

年金を受ける権利が確実に確保され万が一の事故にも安心です。

●手間ははげます

毎月納める手間ははげます。

●割り引きがあります。

年、五分五厘の割り引きがあります。

前納を希望される人は、役場国民年金係で四月末日までに手続きを済ませてください。

昭和五十七年四月から昭和五十

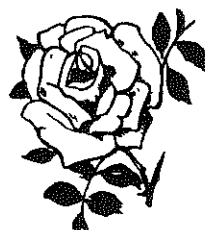
八年三月まで一年間前納の場合、

(定額)

六二、六四〇円が六一、一三〇円に

(定額+付加保険料)

六七、四四〇円が六五、八二〇円になります。



毎日の生活の工夫で成人病をふせぎましょう

・成人病にならない生活の工夫を

成人病と言われているものの中には、死亡原因の一位から三位を占める脳卒中、がん、心臓病などが代表的なものです。これらの病気は「若い時代からの不節制な生活の積み重ねによって起こります。」

最近、成人病になる年齢がだんだん早まってきています。人間のからだは二十歳をすぎると、老化するばかりと言われている中で

栄養・運動、休養の三つの輪をバランスよく保って、成人病にならないように生活の注意をふきとばしてもらいたいと思います。

・カギをにぎるのは食事

成人病の多くは、主として食生活の誤りやタバコの吸いすぎ、運動不足などが原因となつて起こっています。いわば、栄養・運動・休養の三つの輪のバランスが崩れた結果、病気になることが多いのです。

人によつては、生まれつき成人病になりやすい体質をうけついでいる人もいますが、こういう人も三つの輪のバランスよく保って、生活を送れば病気が予防できます。中でもカギをにぎるのは食事です。成人病になりやすい体質をうけついでいない人でも、食生活に十分な注意をはらわず、不節制な毎日を送っていると成人病になってしまうのです。

たとえば、同じ日本人でも欧米の生活を長く送る外交官などの場合には欧米の食生活習慣にひたつてしまつて、高血圧や動脈硬化になりやすいなど、食生活の違いにより病気の種類が違ふ傾向がはっきり現われています。このことは病気のカギを食生活がにぎっていることを示しています。

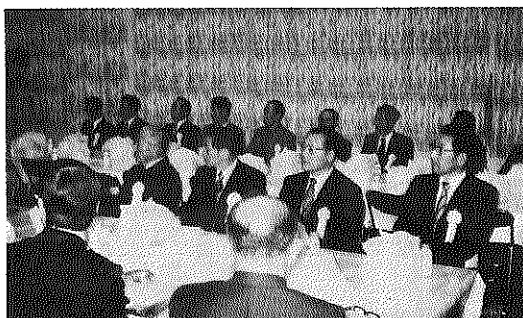
現在成人病はしだいに若い年齢層にも発症するようになってきて

います。

栄養・運動・休養の三つの輪に氣をつけて成人病退治を実行したいものです。

高原開発事業完工式盛大に挙行される

阿蘇北部地域広域農業開発(高原開発)事業が完成し、去る三月二十九日、自然休養村センターにおいて、県及び関係町村長、牧野組合長が参席して盛大に完工式が行われました。この事業は南小国、阿蘇、一の宮、小国の四町、二〇牧野組合が参加し総事業費四〇億七千万円を投入し改良草地五三〇ha、道路六二、〇〇〇mその他の施設が完成しました。当町としては下の道、上の道、間瀬野、滝下、赤馬場、横野、扇、中湯田、八団地で総工事費三億二千万円を投入、改良草地二五六ha、道路三三、〇〇〇m、牧棚、電気通信施設、看視舎、トラクター一式、乾燥施設等すばらしい肉用牛の生産団地が完成しました。今後はこの施設を活用してコストの低い、多頭飼育をめざした草地畜産が展開されるよう期待します。



町内駅伝大会 行なわれる

第七回南小国町駅伝大会は春雨けむる二月二十八日に行われた。午前九時市原小グラウンドに、一般二十三チーム、小中学校より七チームの計三十チームこれまで最高の参加、選手役員集合して、開会式、昨年優勝の湯田Aチームより優勝旗が返還され、大会会長代理、日野元也副会長の挨拶、来賓祝辞、競技上の注意、選手を代表して湯田Aの鞭馬信一選手が力強く選手宣誓して開会式を終る。雨天のため十分スタートをくり上げて、九時五十分にスタート。

成績は次の通り

一位	湯田A	62分31秒
二位	波居原A	65分6秒
三位	黒川A	65分10秒
四位	上中原	66分22秒
五位	TST	67分16秒
六位	満願寺A	67分32秒
七位	馬場A、八位田ノ原、九位吉原、十位黒川B、十一位中中原、十二位杉田、十三位脇戸、十四位星和、十五位中湯田、十六位下中原、十七位波居原B、十八位湯田B、十九位市原町、二十位里組、二十一位満願寺B、二十二位馬場B、二十三位中杉田	

オープン参加順位(着順)

四位南中野球部A、六位南中野球部B、七位市原小、十位南中陸上

十八位中原小、二十六位黒川小、二十七位満願寺小

中学生を始め、交通安全協会役員、小国署、農協女子職員、及び大会役員の皆さん方には本当におつかれ様でした。

本大会が皆様のご協力をいただき一人の事故者もなく盛会に終りましたことを厚くお礼申し上げます。

体協陸上部長 岩下利雄

春の阿蘇路に駅伝大会

第五回阿蘇郡町村対抗、阿蘇山一周駅伝大会は三月七日に行われた。コースは阿蘇町宮グラウンドをスタート阿蘇神社前、坂梨、箱

石、波野入口、洗川、高森で前半のゴール、後半は高森スタート面併小、二子石、久木野村役場、地獄温泉入口、黒川河陽、赤水、的石、阿蘇町宮グラウンドゴール、七十・八十四区間、チーム編成中学生男二名、女子二名、高校生三名、一般七名、三月の大会と成ったため本町は進学受験と、インフルエンザのため、選手不足と練習不足で総合七位でした。



南小国町チーム

監督

マネージャー

岩下利雄

仲摩一徳

一区 鞭馬講二

四区 井聖二

二区 原西幸司

五区 久綱一憲

三区 室原義国

六区 宮崎哲也

四区 宮崎輝信

七区 加藤和代

五区 井上一生

八区 井芳文

六区 高野恭二

補員 山田陽子

後半

下田敬司

一区 橋本裕二

藤堂恭助

二区 齊藤ユリ

樋口晴美

三区 鞭馬信一

原西明治

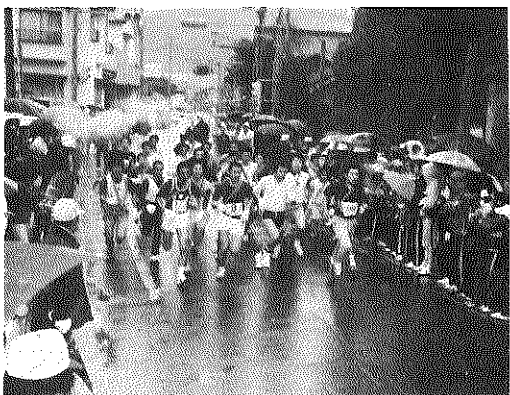
本大会にご協力下さいました選手、役員、応援いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

南小国町体育協会

陸上部長 岩下利雄



第7回町内駅伝大会開会



30チーム、スタート地点



二位を飾った波居原Aチーム



五連覇達成、湯田Aチーム

中原保育園 開園される

このほど待望の中原保育園が、完成しこの春より、新入園児を待つばかりとなりました。

園児定員 四十五名

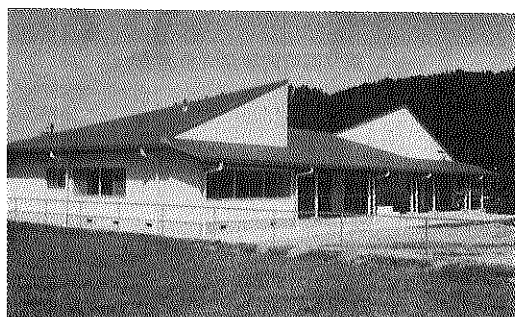
総工費 四九、〇〇〇千円

工期 昭和五十六年八月一日

昭和五十七年三月十日

延面積 二一、一七二㎡

請負業者 二宮工務店



完成した中原保育園

第607回共販状況報告

南小国町森林組合

共販日 昭和57年 3月23日

出荷玉数 12,633玉

材積 676,386㎡ (2,434石)

次回 昭和57年 4月 8日

売上金額 14,514,291円

平均 ㎡ 21,458円

石 5,960円

樹種	長級	径	級	高	価	安	値	備	考
杉	4m	3~8cm	24,600	13,180				第606回共販	
〃	〃	9~16cm	25,190	17,610				玉数	14,906玉
〃	〃	18~26cm	33,810	20,100				材積	889,776 玉
〃	〃	28cm以上	37,100	31,890				㎡ (3,203石)	
〃	3m	3~24cm	26,990	8,600				売上	20,747,804円
〃	2m	7~38cm	17,400	6,000				平均	㎡ 23,318円
松	6m	14~22cm	73,400	63,910				石	6,477円
〃	4m	9~30cm	69,000	39,760					

がんばっています

シリーズ

「花を中心とした農業経営」
水稲単作の農業経営から脱皮、花き栽培に取り組んで七年目を迎える田の原の井野勝幸君(二十五才)は、昨年四月町内から奥さんを迎え、張切って花栽培に励んでいる。現在水田百二〇アール、畑五アール半二頭を主に山林、椎茸を経営しているが減反政策と米価の頭打ちなどから、いち早く経営の体盾改善を行うため、りんどうを主体にゆり、ヒオギ、ストックなど三十アールを栽培、従前の米ブラス畜産の経営を上回る増収と経営安定につとめている。

あるし、組合せ次第では通年的に収入を得ることが出来る一方、水稲と違って二一三年を要する作物なので切替初期に収入が少ないことであるが、意欲次第ではかなりの多収益が期待できるし高冷地の立地条件を活かすことが可能です。最初はお隣を本手に「損」も覚悟で始めた仕事で失敗もありましたが順調に進んでいます。今後は露地栽培から雨避け栽培に切替え安定性、収益性を高めるとともに市場に強い花の生産団地となるため、仲間が欲しいとの事、そして「花栽培が他の作物と違うところは熱心さの外に市場性や成育状況を見ながら低調と思つたら素早く切替える思い切りも必要」と言う。年に何回かの研修も欠さない。



また十年ほど前に集団化した八〇アールの農地を十五二〇アールに自力で区画整理してあつたことが輪換作付や省力化に大変有利であると父母に対する感謝の気持ちも忘れていない。平坦地同様坪に一万円の粗収益をあげることを夢見ている(家族四人、菊池農卒、農協花き部会員)

お知らせ

本年度の猟銃および空気銃、建設用鋸打銃の一斉検査を次のとおり実施します。

猟銃等の所持者は、自己の所持する銃砲、銃砲所持許可証、印鑑を持参して、下記の日時、場所での検査を受けて下さい。

検査日	時間	場所	検査区域
4月15日	9:30 13:30	黒川駐在所	黒川
4月19日	9:30 15:30	管理センター	馬場原
4月22日	9:30 13:30	熊の家	満願寺
4月24日	9:00 12:00	小国署防犯係	未受検者



増設された木材共販場

4月休日在宅医(午前9時~午後5時)

月日	医師名	電話番号
4・4(日)	室原 医院	2-0010
4・11(日)	武石 医院	6-2463
4・18(日)	蓮田 医院	2-0125
4・25(日)	梅木 医院	6-2076
4・29(祝)	大塚 医院	6-2056

3・8	3・7	3・3	2・27	2・24	月死亡	3・14	3・11	3・11	3・7	3・5	2・25	2・9	2・1	月出生
河津アサエ	菊池キマ	佐藤サキエ	興松ウラ	穴井ツジエ	死亡者	堀川春菜	佐藤達也	高野直幸	高本里紗	佐藤尚美	川原誠	野田愛	小林裕美	出生者
敏男	優吉	政廣	英福	欣一	喪主	千博	建志	義人	勇次	公平	正嗣	恒親	茂喜	保護者
湯田上	扇下	扇下	白川	荒倉中	住所	中湯田	手形野	陣内	中杉田三	星和	下杉田	本町一	黒川	住所

戸籍明暗